



あいかんきょう



2010/4/20
会報・第103号



「名古屋城と桜」

提供：名古屋城管理事務所

四季折々

「いろいろあったけど最後まで応援してくれた人には感謝しているし、自分のスタイルと想いは最後まで曲げなかったんで、それは本当にいいことだと思っています。」▼バンクーバーオリンピックで話題になったスノーボード・ハーフパイプ日本代表の国母選手が、8位になった競技終了後に語った言葉である▼バンクーバーに向かう成田空港で日本選手団の公式スーツを着崩し、その後の現地での記者会見では、「反省してまーす」「チツ、うるせーな」などと発言し、マスコミの格好のネタになり、文部科学大臣まで発言するなど、その服装の乱れやその後の言動について世間で様々な物議を醸し出した▼そんな中で、世界で数人しかできないといわれる大技に果敢に挑み、まさに自分のスタイルを貫いた▼冒頭の言葉を聴いて、とにかく自分の目の前の仕事に全力でとことんまで取り組んで、自分の目標を立ててその達成に向けて日々努力している姿が容易に想像できた▼先の見えない厳しい状況が続く中、21歳のプロフェッショナルな若者の姿に勇気づけられた。

第二十八回通常総会開催

第二十八回通常総会が三月二十六日（金）午後二時三十分からウインクあいち（愛知県産業労働センター）で愛知県環境部環境政策課宇都木主幹様、愛知県産業労働部商業流通課計量センター小関主幹様のご臨席を賜り開催されました。

平成二十一年度事業中間報告並びに平成二十二年事業計画、公益法人制度改革に伴う一般社団法人移行について、平成二十二年取支予算の議案が全て承認されました。

その席上、測定分析に係わる地球温暖化防止並びに生物多様性の推進喚起標語募集事業において、入選された(株)ノザキの奥村梨世様が表彰されました。



平成21年度 測定分析に係わる地球温暖化防止並びに生物多様性の推進喚起標語入選者一覧

	標 語	所 属	氏 名
入選	計量で 明日へつなごう 豊かな自然	(株)ノザキ	奥村 梨世
佳作	正しい計量で 残そう 自然豊かな 我らの地球	(株)大同リサーチ	阿部 照代
佳作	エコ活動 効果を採点 環境測定	(財)東海技術センター	揖斐 恵美
佳作	正確な環境分析は、地球温暖化防止の第一歩	(株)イズミテック	岩本 雅之
佳作	正確な測定が照らす地球の未来	藤吉工業(株)	久野 宏和
佳作	測定で生き物たちの声を聴く みんなが地球の担当医	(株)イズミテック	榊原 優
佳作	環境を 測って守る 我が使命	(株)東海分析化学研究所	杉浦 敦文
佳作	CO ₂ を減らすため ムダ・ムラ無くして エコ分析	サンエイ(株)	高橋 信秀
佳作	分析で 貢献しよう 種の保全	(株)イズミテック	中山 弘康
佳作	計量も 無駄を省いて 正確に	東亜環境サービス(株)	馬嶋 幹生
佳作	効率アップはエコアップ 無駄をなくして 地球を守ろう	(株)ユニケミー	舟橋真佐美智

(佳作は五十音順)

第18回 平成22年度 日環境・環境セミナー全国大会 in Nagoya 技術発表者の募集

(社)日本環境測定分析協会主催の「環境セミナー全国大会」が下記の日程で開催されます。当協会も積極的に支援いたします。

そこで、研究発表等の技術発表演題を募集いたします。会員事業所の実務担当者等の方々には奮ってご応募ください。

記

【開催月日】平成22年10月21日(木)・22日(金)

【開催場所】愛知県産業労働センター(ウインクあいち)名古屋市中村区名駅4-4-3 8

【行事内容】環境関連講演会、技術発表、分析・測定機器展示など

※詳しくは、協会事務局にお問合わせください。

平成二十一年度 共同実験報告

(社)愛知県環境測定分析協会
技術委員会では、共同実験を水質・土壌関連を毎年、大気・臭気又は騒音・振動関連を交互に、毎年計二回実施しております。

今回、平成二十一年度の共同実験についてご報告いたします。

第1回共同実験(水質・土壌WG)
汽水を想定した模擬環境水のCOD_{Mn}及び亜鉛の二項目とし、濃度の異なる各二種類で行いました。

①変動係数とロバストな変動係数
例年のようにzスコアで解析し、COD_{Mn}ではロバストな変動係数と変動計数には大きな差が見られませんでした。が、亜鉛では差が大きく突出した外れ値が多かったことがわかります。

表1 第1回共同実験 参加状況

県別	参加試験所	COD _{Mn}	亜鉛
富山	4	4	4
石川	2	2	2
岐阜	5	5	5
静岡	7	7	7
愛知	43	43	39
三重	3	3	3
合計	64	64	60

表2 COD_{Mn}の統計解析結果の概要及びzスコアの出現率

統計解析結果	試料1	試料2	試験所間	試験所内
試験所の数	65	65	65	65
中央値(メディアン): Q ₂	13.6	19.2	23.2	3.89
第1四分位数 : Q ₁	12.8	17.7	21.7	3.39
第3四分位数 : Q ₃	14.2	20.2	24.4	4.38
四分位数範囲 IQR = Q ₃ - Q ₁	1.40	2.50	2.69	0.99
正規四分位数範囲 IQR × 0.7413	1.04	1.85	1.99	0.734
ロバストな変動係数(%) (IQR × 0.7413 / Q ₂) × 100	7.6	9.7	8.6	18.9
変動係数(%)	8.7	9.9	8.7	24.7
z ≤ 2 (%)	90.8(59)	95.4(62)	95.4(62)	90.8(59)
2 < z < 3 (%)	9.2(6)	3.1(2)	4.6(3)	4.6(3)
3 ≤ z (%)	0.0(0)	1.5(1)	0.0(0)	4.6(3)

表3 亜鉛の統計解析結果の概要及びzスコアの出現率

統計解析結果	試料3	試料4	試験所間	試験所内
試験所の数	59	60	59	59
中央値(メディアン): Q ₂	0.0053	0.0209	0.0185	0.0110
第1四分位数 : Q ₁	0.0047	0.0188	0.0168	0.00969
第3四分位数 : Q ₃	0.0078	0.0268	0.0237	0.0122
四分位数範囲 IQR = Q ₃ - Q ₁	0.00306	0.00798	0.00701	0.00254
正規四分位数範囲 IQR × 0.7413	0.00227	0.00591	0.00519	0.0076
ロバストな変動係数(%) (IQR × 0.7413 / Q ₂) × 100	42.6	28.3	28.0	17.1
変動係数(%)	216.8	171.0	171.0	210.2
z ≤ 2 (%)	78.0(46)	81.7(49)	79.7(47)	67.8(40)
2 < z < 3 (%)	6.8(4)	3.3(2)	5.1(3)	11.9(3)
3 ≤ z (%)	15.3(9)	15.0(9)	15.3(9)	20.3(10)

②亜鉛測定条件の集計結果

亜鉛についての各試験所からの報告値を、測定方法別に分類しました。報告数60試験所(うち1件は高濃度試料のみの参加)のうち、電気加熱原子吸光法が3試験所、フレイム原子吸光法が18試験所、ICP発光分光分析法が30試験所、

試験所、ICP質量分析法が9試験所となっていました。ICP-MS以外の分析法では今回の試料の様に塩濃度の高い場合には、マトリックス除去及び濃縮操作が必要になってきますが、環境中からの汚染に注意すると共に熟練しておく必要があるように思われました。また標準

に、最低限検量線の範囲内で定量することが必須条件だと思われました。
第2回共同実験(大気・臭気WG)
平成二十一年十月二十日(火)に(株)テクノ中部様の協力を得て敷地内に設置した模擬煙道内にアイドリング状態でのディーゼルの排ガスを流し、「JIS K 0104 排ガス中の窒素酸化物分析方法」及び「JIS K 0301 排ガ

ス中の酸素分析方法」に定められている方法または各事業所が通常用いている方法で測定し、換算窒素酸化物濃度を算出してまいりました。各機関の測定方法やデータ処理方式の違いを確認し、日常業務の精度向上や効率化に役立つ事を目的に行いました。

表4 第2回共同実験参加状況

県別	参加試験所	報告数
富山	1	2
岐阜	1	1
静岡	5	5
愛知	19	19
三重	4	5
合計	30	32

共同実験の結果報告書以外に各事業所の計量証明書も提出してもらい、数値の取り扱いに際しても確認しました。
NO_x換算値の算出方法は、「窒素酸化物濃度の平均と酸素濃度の平均から算出」・20件「1回目の換算値と2回目の換算値の平均から算出」・12件計量証明書の有効数字は2桁が大多数ではありましたが、3桁で表示している事業所もありました。
現場での共同実験は少なく、他の事業所の作業状態等の確認はできないと思われ、測定方で、機器の取り扱い、測定方

法及びデータ処理方法等自社の違いを確認し、業務に役立てていただければ幸いです。最後に会場の提供及び多大な

ご支援をしていただいた株式会社ノ中部様に御礼を申し上げます。

表5 測定方法別実測NOx濃度 (単位ppm)

測定方法	平均	最大	最小	数
イオンクロマトグラフ法	82.2	100.0	65.2	16
PDS法	71.8	82.1	50.7	4
Zn-NEDA法	123.1	180.7	93.0	3
化学発光方式	75.1	81.7	63.5	8
定電位電解法	97.8	-	-	1
全体	83.4	180.7	50.7	32
モニター	80.9	84.8	75.4	-

表6 測定方法別O₂濃度 (単位%)

測定方法	平均	最大	最小	数
オルザット式	15.7	16.6	13.6	21
磁気式	15.7	15.8	15.6	5
ジルコニア方式	15.9	16.3	15.7	3
カルバニ電池式	16.7	16.8	16.5	2
電極方式	15.9	-	-	1
全体	15.8	16.8	13.6	32
モニター	15.9	16.5	15.5	-

委員会活動報告

総務委員会

委員長 大場 和子

本年度の委員長を務めさせていただきます。

「地球温暖化防止並びに生物多様性の推進喚起標語」に

多数の応募を頂きありがとうございます。第五回委員会を二月十八日に開催しました。

①喚起標語の選考…応募二一九作品、十六社(昨年度二

〇四作品、十五社)があり、入選一作品、佳作十作品を選考しました。

②愛知県計量関係功労者表彰候補者の選考：候補者として二名を推薦しました。

③愛知県環境保全関係功労者表彰候補者の選考：候補者として一名を推薦しました。

企画委員会

委員長 山本 英治

「ISO/IEC 17025を学ぶ」研修会は今年で三年目を迎えます。今年度は「技術的要求事項」(講師：服部寛和/株ユニケミー)、「不確かさ」(講師：牧原大/株環境科学研究所)の二講座とし、それぞれ十一月下旬、来年二月上旬に予定しています。過去二年間の経験を踏まえて、要望の多かった事例を増やし、またグループ討議の時間を拡大する等の、より実践的な講義を企画していきます。

教育・研修委員会

委員長 大野 哲

「SOP研修会」を一月二十一日に中京大学市民文化会館にて開催しました。株ユニケミーの柳澤雅明講師により、参加者十六名で実施しました。題材はSS(浮遊物質)で、四つの班毎に作成したSOP

を発表し、質疑応答を行い、大変好評で終えました。また二月八日には第五回の委員会活動の反省を行いました。多くの「好評であった」、「理解ができた」などの参加者の声が大変嬉しい一年間でした。

本年度は、新任者研修会、初級統計研修会、中堅実務者研修会、環境計量士等研修会、SOP研修会の開催を予定しています。前年度の反省を活かしてより良い運営をして参りますので、会員皆様の多数のご参加をお願いいたします。

広報委員会

委員長 西脇 光正

二月十八日に委員会を開催し、広報誌第一〇三号の掲載記事について協議しました。本年度の「環境月間講演会」は六月十四日(月)にウインクあいちで開催予定ですので、多数のご参加をお願いいたします。

技術委員会

委員長 長尾 隆宏

水質・土壌ワーキング 十二月十五日に第一回共同実験結果検討会を中京大学市民文化会館にて参加人員三十名で開催しました。結果説明の後、二グループ

に分かれてディスカッションを行い、またその後、アンケート調査も実施し、より一層業務に役立てられる結果検討会にしていきたいと思っております。

本年度の共同実験の項目は現在検討中です。 大気・悪臭ワーキング 三月九日に第二回共同実験結果検討会を参加者二十五社二十八名(県内十八名、県外十名)で開催し、結果説明の後に事前配付のテーマで意見交換会も行いました。

本年度は、勉強会を計画中で、内容については今後ワーキングで検討し、多くの機関に参加していただけるような内容にしたいと思っております。

騒音・振動ワーキング 本年度の第二回共同実験は鉄道、自動車などの騒音測定を計画しており、参加者全員が同時に測定できる場所及び方法を検討していきます。

対外交流委員会

委員長 宇野 孝

昨年度は、久々の施設見学会(県下近傍の二事業所)を計画、実施しました。参加された会員には大変好評であり、所期の目的である会員の視野拡大並びに会員相互の交流が

深まったのではないかと推察されました。

本年度は、十月に名古屋で行われます第十八回日環協・環境セミナーに向けての諸準備を主体に、逐次、海外研修生受入対応および他団体交流に関する検討を行う予定です。ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

十二月十七日、二月二十三日に委員会を開催し、更新作業を一月十四日に行いました。委員会においては会員ページのメンテナンス及び更新作業と新たに作成した委員会紹介ページに委員会報告の掲載を実施し、資料保管庫の本年度の立ち上げに向けての検討を行いました。またホームページ上でのフォトコンテスト開催の提案もされました。

現在ホームページは、毎月更新がされており、多くの会員の皆様が訪問されることを切望しています。

トップページの写真は会員の応募作品で飾っております。ご意見、応募写真は常に受け付けておりますので、事務局まで連絡をよろしく願います。

ブロック会議報告

第一ブロック

ブロック長 宇野 孝

二月四日に十一社十四名が参加して行いました。

初めに、二十一年度下期の事業経過や今年度の景況調査結果の報告を行いました。また、十月に実施される「日環協・環境セミナー全国大会」の紹介を行い事例発表等についての協力をお願いしました。

続いて、濱地会長より最近の測定分析業界を取り巻く情勢について、依然として厳しい経営環境にあるが、その中でも明るい話題として、絶縁油のPCB分析や水質汚濁防止法の改正などのお話を伺い、今後の展開に大いに期待を持つことが出来ました。

会議終了後は、有志による恒例の懇親会を行いました。

第二ブロック

ブロック長 鎌田 務

一月二十八日に十社十一名が参加して行いました。

会議の内容は次のとおりです。

①第三、四回理事会の概要について：特に今年度本県で開催される、日環協・環境セミナーに会員の協力及び参加をお願いしました。

②「土壌汚染対策法の改正について」：愛知県環境部水地盤環境課規制・土壌グループ課長補佐畔柳豊秀様より講義をいただきました。

③濱地会長より：環境省中央環境審議会「今後の効果的な公害防止の取り組みのあり方について」等の説明をいただきました。

会議終了後に懇親会を行い会員の色々なお話を聞くことができました。

第三ブロック

ブロック長 柴田 金作

二月五日に十社中八社の参加で行いました。

濱地会長には所用でご出席いただけませんでした。事務局長から会長のメッセージをいただきました。

また、今回は愛知県の畔柳豊秀様より「土壌汚染防止法の改正について」と題し講義をいただきました(第二ブロックと同様)その後、理事会報告(事業報告・各委員会報告・退会賛助会員の報告)と日環協の全国技術セミナーへの当ブロックからの発表機関を選考しました。

会議終了後、有志にて懇親会を行いました。

第四ブロック

ブロック長 豊田 豪

二月三日に十五社中十二社の参加で行いました。最近の参加率が高くなってきており大変ありがたく思っています。

会議の内容は、①第三回及び第四回理事会の報告、②「第十八回日環協環境セミナー」の開催要項について説明を行い、また技術発表会の演題について、当ブロックからの発表機関の選考を行いました。

③最後に濱地会長より最近の環境測定に関する情報のお話をいただきました。

会議終了後は情報交換を目的とした懇親会を行いました。

一月二十二日に十八社中十六社の参加で豊橋市商工会議所にて行いました。

会議では、①今年度の第三回及び第四回理事会の内容報告、②各委員会の活動実績報告、③会員の近況報告をお弁当タイムも含めて行いました。

第五ブロック

ブロック長 大野 哲

近況報告では、業績低下など昨年実施した景況調査結果を裏付ける報告や積極的ニーズを開拓したいなどの意見もあり、各社の相互理解ができました。

また十月に開催予定の「第十八回日環協・環境セミナー全国大会」への会員の全員参加と、大会二日目の技術発表への積極的な参加をご案内しました。

事務局からのお知らせ

第二十九回通常総会
平成二十二年五月十四日(金)
プリンセスガーデンホテル

環境測定分析新任者研修会
平成二十二年六月二日(水)
中京大学文化市民会館

環境月間講演会
平成二十二年六月十四日(月)
ウイנקあいち
(愛知県産業労働センター)

初級統計研修会
平成二十二年七月九日(金)
ウイルクあいち
(愛知県女性総合センター)

皆様の参加を宜しく願っています。



◆ ◆ 趣味のコーナー ◆ ◆

◆ ◆ 自然を楽しむダウンリバー
(株)イズミテック

大野 哲

私は学生時代、スポーツには関心が薄く、就職してからもあまり自ら行うことはありませんでした。ところがある日、春の長良川中流の土手を散歩していると、川の中央を三艇のカヌーが川を下って行く光景が飛び込んできました。私は初めて見る光景でしたので、唖然として見ていましたが、櫻吹雪の舞う美しい川の景色の中を優雅に漕いでゆく姿に魅せられて、つい声を掛けていろいろ話を聞いてみました。

一ヵ月後、気が付くと私も艇を購入し、その仲間に入っていました。考える事よりも感じた衝動による行動が先行したのです。そのとき以来、川で出会った仲間たちと、ダウンリバーを楽しむようになりまし。しかし出会った仲間が悪く、競技カヌーをやっている人たちだったので、長良川や木曾川そして矢作川とダウンリバーを楽しんでいる間に、いつの間にか次第に草レースや各地の公式戦に出るようになりまし。それは一人乗りカヤック(K-1)のストラローム競技というもので、試合では二十五のゲートポールを通過します。ゲートポールに触れたり、不通過だとタイム加算されてしまいます。そして艇もレジャー用から競技用へと変わっていました。草レースといえど国体選手やオリンピッククラスの選手も参加しています。当然そのパワーとテクニクに打ちのめされましたが、次第にレースが面白くなり練習にのめり込んで行きました。週末ごとにグレンデ(川)に行き、真冬もワイヤーでゲートセットイングしているストラロームコースで練習し、全日本選手権やNHK杯なども無謀にもエントリーしてみまし。



福井県足羽川での試合風景(私)

週末の息抜きで始めたはずのカヌーが、ダムの特別放水による激しい水流での試合にもチャレンジしている自分もそこにはいました。リザルトは当然の如く散々なものでしたが、マイナーなスポーツであるために、選手人口が少なく全国の選手と出会うことができました。

然したる体力も運動神経もない私は、そうした日々が長く続くはずも無く、数年で選りとしたダウンリバーを楽しむことにしました。同じ川でも毎週のように下ってみると水量、気候によって川の印象は変わります。初夏の日差しは躍動的な川も好きですが、水面から水蒸気が立ち上がっているような静かな川も魅力を感じます。天然の鮎はスイカのような甘い香りがしますが、それは鮎が食べている川の苔の香りです。そうした川の香りに包まれると懐かしさを感じるのと同時に童心に返り川で遊ぶことが出来ます。夏季は各地で鮎釣りが盛んになって、さすがにダウンリバーは困難になりますので、鮎釣りシーズン前後の春と秋がダウンリバーの主な季節です。

日本は原生林を流れる釧路川(源流付近)や穏やかな四万十川など様々な個性のあるたくさん川の川があり素晴らしいと思います。中でも美しいと感じるのは、安曇野の犀川の支流である万水(よろずい)川です。北アルプスの伏流水なので夏でも冷たくとても澄んでいて、木漏れ日の中、深緑の森に包まれ水中一面に見える梅花藻の上を下る感動は、カヌーならではの贅沢なものです。何度下っても川から見える風景の素晴らしさは飽きることがありません。しかし、以前は殆ど見られなかったごみが最近少し増えてきたような気がし。今では年に数回カヌーを車に積んで川や湖に出かけますが、普段は全国の中でも水質の良い豊川の中流(新城市)で練習しています。パドリング(漕艇)は、一見単調なようですが、水を掴む感じが面白く、スピードの出るタイプのカヌーも時々練習しています。初めての人は、ガイド付きのラフティング(ゴムボート)が流行っているようですので、川下りを体験するには良いかも知れません。昨年から子供も自分用の艇で遊ぶ

ようになったので、時間のあるときには一緒に漕ぎます。また川ではありませんが、黒姫山と斑尾山に囲まれた野尻湖(長野県)の雰囲気が入っています。湖水面からの眺める山のパノラマは心を癒してくれます。



美しい早朝の野尻湖

そうしたカヌーを通して人々と出会うことは、非常に楽しいものです。癒しを求めて自然の中に集まって来るからでしょう。自然の中で遊びつ、人と人との繋がりの持てることができ、趣味を通してそうした出会いに感謝しております。



子供とカヌーを終えて

☆☆☆ 名古屋開府四〇〇年祭 ☆☆☆

名古屋開府四〇〇年記念事業実行委員会 事務局長
名古屋市長務局参事(名古屋開府四〇〇年祭の推進) 角 謹平



愛環協会員の皆様方には健やかにお過ごしのことと心からお喜び申し上げます。また、

当実行委員会及び本市の事業に日ごろよりご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。甚だ僣越ではございませんが、名古屋開府四〇〇年祭について紹介させていただきます。

一 名古屋のまちづくりが始まって四〇〇年



七間町山車曳き-尾張名所図會 (資料提供: 映像塾)

一六一〇年(慶長十五年)に、名古屋城築城と同時に開始された清須からの町ぐるみの移転(いわゆる清須越(きよすごし))により、名古屋のまちづくりが始まったことを「開府」とよび、それからちょうど四〇〇年となる二〇一〇年は名古屋開府四〇〇年にあたります。

名古屋には、開府以降、これまで連続と受け継がれてきた歴史的建造物、伝統産業、祭りなど、全国に誇るべき財産が数多くあります。

具体例を紹介しますと、名古屋城「本丸御殿」は、建物の素晴らしさばかりでなく、室内を華麗に彩る狩野派による障壁画など、当時最高の技術が集約されており、この建築技術が筆筈、仏壇など尾張の伝統産業の源流となつています。また、江戸期には、茶道、舞踊、義太夫、常磐津、長唄、歌舞伎、浄瑠璃など幅広い分野の芸能文化が名古屋に定着し「芸処なごや」の礎となりました。

このように先人たちが築きあげた名古屋の魅力と財産を、さらに磨き上げ、未来へとつない

ていくとともに、次の一〇〇年に向けて新しいまちづくりを始めるため、この記念すべき二〇一〇年に「名古屋開府四〇〇年祭」を開催し、名古屋のまちの賑わいの創出をめざします。

二 名古屋開府四〇〇年祭の主なスケジュール



名古屋まつりの山車

名古屋開府四〇〇年祭の主なスケジュールとしましては、まず皮切りのイベントとして、二〇〇九年一月三日の深夜から翌一月一日にかけて、築城開始四〇〇年を迎える名古屋城において、名古屋開府四〇〇年の幕明けを華々しく祝う「オープニングセレモニー」を実施しました。四月には郷土芸能を織り交ぜながら四〇〇年の歴史を振り返るとともに、未来に向けたメッセージを発信する「名古屋開府四〇〇年記念ステージ(記念式典)」、八月には子どもたちの祭典である「なごや☆子どもCITY2010」、一二月

には名古屋開府四〇〇年のフィナーレを飾るイベントとして、「煌きの光ファンタジア」(仮称)を「やど灯りまつり」(仮称)を開催するなど、一年を通して名古屋のまちを賑やかに繋いでいきます。

一年間の中でも、最も名古屋のまちが賑やかになるのは、COP10(生物多様性条約第十回締約国会議)が開催される十月になると考えております。世界一九二の国と地域からおよそ七千人の方々がこの名古屋へ訪れる予定です。そして、これまた奇遇にも国際芸術祭の「あいちトリエンナーレ2010」が時期を同じく開催され、より一層名古屋は注目を集めることと思います。

このCOP10あいちトリエンナーレ2010が開催される時期に合わせ、恒例行事の名古屋まつりが開催されることに加え、名古屋開府四〇〇年を記念した「大山車まつり」が行われます。これは、名古屋の町民文化の象徴である山車を市内各地から十三輛が集まり、尾張名古屋の城下町を曳行されるダイナミックな山車の祭典です。百年前の開府三百年祭のときにも山車曳きは行われたそうで、この「大山車まつり」はその再現ともいえ

ます。さらにこの日、四〇〇年前の清須越を偲び、提灯を手に持ち夕闇を歩く「清須越夢歩き」を実施します。お隣の清須市を中心とした「清須越四〇〇年事業実行委員会」と連携を図り、思い思いの姿でゴールの名古屋城をめざす提灯行列などを展開する予定です。

また、名古屋城本丸御殿玄関の復元過程特別公開もこの秋に予定されています。かつて名古屋城の本丸には、天守閣とともに本丸御殿がありました。この本丸御殿は近世城郭御殿の最高傑作として、現在国宝となっている京都二条城の本丸御殿と並び、武家風書院造の双壁といわれた建造物です。昭和二〇年の空襲により天守閣とともに消失しましたが、正確な図面が残っており、忠実な復元が可能なのから、平成一九年より十年をかけて復元作業を進めております。

また、名古屋城本丸御殿玄関の復元過程特別公開もこの秋に予定されています。かつて名古屋城の本丸には、天守閣とともに本丸御殿がありました。この本丸御殿は近世城郭御殿の最高傑作として、現在国宝となっている京都二条城の本丸御殿と並び、武家風書院造の双壁といわれた建造物です。昭和二〇年の空襲により天守閣とともに消失しましたが、正確な図面が残っており、忠実な復元が可能なのから、平成一九年より十年をかけて復元作業を進めております。



本丸御殿復元イメージ図

三 まとめ

名古屋開府四〇〇年祭は、二〇〇五年に開催された「日本国際博覧会（愛・地球博）」のような従来の「拠点・期間型」ではなく、既に実施されているものを含め、市民・企業等の方が行う催事等と連携を図りながらお祭りのシンボルとなるイベントを期間の節目ごとに開催するという、いわば「名古屋のみなさんが主役のお祭り」になります。この趣旨に賛同いただき、多くの方の参画を得ることによって、二〇一〇年の名古屋のまちの盛り上げを図ってまいりたいと考えておりますので、ぜひ皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋開府四〇〇年祭ウェブサイトを
http://www.nagoya400.jp/



四〇〇年の旅人「はち丸」とねがいボシ「かなえっち」名古屋開府四〇〇年祭をPRするため市内の様々なイベントに参加しています。

環境・時の話題

紫外線と有機物循環

ちよつと古い話であるが、一九九七年一月に起きた日本海におけるロシア船「ナホトカ号」の重油流出事故では福井県沿岸を中心に200km以上に及ぶ海岸線が重油で汚染されたのであるが、懸命なボランティアの活動もあってほぼ一年で海岸線の重油が消えた。実際、事故当初には、ある学者のコメントのように記憶しているが、「この重油が海岸から無くなるには三年以上かかる」というものだった。いくら懸命に油回収を行っても岩肌にごびりついた重油を完全に取り除くことは困難であったから、これらが徐々に洗い流されるにはそれくらいの年月を要すると予測したのであろう。実際、その時点では、誰もがこの意見に納得したものである。それが一年で復旧したのはなぜであろうか。全くの私見であるが、このように予想外の回復を見たのは、海岸線における紫外線と海水の効果ではないかと考える。海水の主成分はNaClであるが、pptレベルまで考慮すれば殆どの元素を含有して

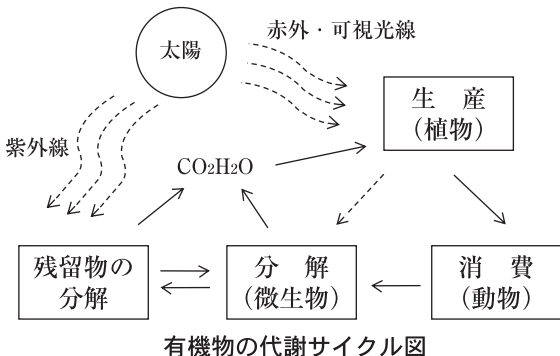
いる。元素の中には、いわゆる触媒作用を有するものも多くあり、海岸に降りそそぐ紫外線の酸化作用を助長する。また、岩石自体も触媒の役目を果たしたかもしれない。300nm台の紫外線と触媒があれば有機物分解が促進されることは最近はやりの「光触媒」(注)で理解できる。即ち、岩肌にごびりついた重油が波打ち際で海水をかぶり、紫外線の作用が加わると酸化が進行し、より低分子化・親水化し海水に溶けやすくなったと推察できる。こうして水に溶けてしまえば後は微生物による分解を待つばかりと言えることになる。

地球上における有機物の代謝は、植物→動物→微生物のサイクル(下図)で維持されているが、生産としての光合成を可視光線・赤外線が担い、微生物による分解残留物を更に分解(無機化)する役目を紫外線が担っているのではないかと想像する。例えば、植物の最終分解物であるフミン質は紫外線によって無機化されるのが分かっている。地球の原始大気には酸素が存在せず、96%が二酸化炭素であったとされている。この

ため、地表には強烈な紫外線が降りそそいでおり、生物は存在することが出来なかった。ところが、三十六億年前に紫外線の届かない海の中で藍藻類が発生し、これが大気中に酸素を供給することによりオゾン層が形成され、地表に降りそそいでいた大部分の紫外線が遮断されることになった。ここで初めて、地上への生物移動が可能となり陸上生物が誕生したのである。その後、このオゾン層を抜け出した微量の紫外線が有機物循環の一翼を担っているとすれば、ここでも微妙なバランスの上で生態系が維持されていることになるのではないかと考える。

(注)光触媒 ある種の金属酸化物が光を吸収し、その触媒作用によりOHラジカルを生成し酸化作用を示すことはかなり以前から知られており、当時は光増感反応(photosensitization)と呼ばれていた。例えば、ポリプロピレンは熱に強いが「夢の繊維」といわれたが光に弱く繊維素材とはならなかった。この原因として、重合時に使用されるチタン触媒がTiO₂の形で残留し、これが光増感反応を起すとした文献もあった。今日では、このTiO₂が光触媒の主役になっている。

(文責:佐野教信)



有機物の代謝サイクル図

発行人 (社)愛知県環境測定分析協会
会長 濱地 光男
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (社)愛知県環境測定分析協会
広報委員会